

## 中心市街地における地域拠点施設の整備について

### I 地域拠点化施設の整備の背景と目的

2020年5月7日のJR札沼線の廃止に伴い代替路線バスの運行、既存の中央バス月形線と新篠津村営バス、そして新たに整備する町内公共交通により、バスターミナルの整備を早急に進める必要があります。

こうした公共交通ネットワークの整備に加え、公共施設等の中心市街地への再整備を進めることにより、今後一層進む人口減少と高齢化に対応していかなくてはなりません。今回のJR札沼線廃止を契機として、公共交通ネットワークの構築とコンパクトなまちづくりをセットで推進する必要があります。

以上のことを背景に、交通の拠点としてのバスターミナルの整備を中心に、今後、整備を必要とする施設や既存施設の老朽化対策、類似施設の統廃合等を含め、住民生活に関わる施設の拠点化について検討します。

### II 施設の現状と分析

多くの公共施設は、国道275号とJR札沼線との間に配置されており、各施設間の移動距離は1km程度で、比較的まとまった状況です。

しかし、高齢化や交通弱者への対応を考慮した施設配置を検討していく必要があります。また、公共施設の老朽化による大規模修繕や建て替え等、中長期的な視点による公共施設の維持管理を見据え、計画的な維持管理を行っていかねばなりません。

#### 【中心市街地周辺の公共施設】

NO	施設名	築年数	備考
1	図書館	49年	旧町立病院
2	交流センター	11年	
3	多目的研修センター	36年	
4	小学校	39年	
5	役場	47年	
6	町立病院	24年	
7	保健総合福祉センター	25年	
8	中学校	43年	
9	市南福祉会館	24年	

### III 地域拠点施設整備地の選定

月形町地域拠点化整備基本構想に掲げられた候補地を基に、整備地の絞り込みと整備が必要な施設やその機能を決定します。

地域拠点化整備の事業コンセプト、「みんなが立ち寄り集う地域の安心と賑わいの

拠点」づくりを図るうえで、想定する施設機能や今後整備が必要な施設の再配置（統廃合含む）等も視野に、施設の複合化や集約化もしくは分散化など多方面から検討し、住民の利便性と施設機能の効率化が図られるような場所を選定します。

#### IV 地域拠点化に必要な施設と機能

新たな公共交通ネットワークの構築に伴うバスターミナルの整備を中心とした、コンパクトなまちづくりを目指すうえで必要な公共施設の整備と再配置を検討します。

##### 【想定する施設と機能】

施設	機能・規模
バスターミナル	・JR 札沼線にかわる新規路線バス、既存の中央バスマ月形線・新篠津村営バス、町内新公共交通のための総合的なバスターミナル
バスターミナル待合所	・バスターミナルに付随される待合スペース、出札窓口、トイレ、情報掲示等
図書館	・現在の月形町図書館と同規模（延べ面積：1,035 m <sup>2</sup> ）
サロン	・誰もが利用できる交流空間、コミュニティカフェ機能 ・社会福祉協議会によるふれあいサロン事業スペース、障がい者支援施設等による活動スペース
観光 PR 施設	・皆楽公園に整備予定である観光 PR 施設のサテライト機能 ・観光情報の掲示・掲出、物販スペース等
商業スペース	・民間の生活関連サービス・店舗のためのテナントスペース
集会スペース	・多目的に活用できるホール・コミュニティスペース
共用ロビー	・各機能を結ぶ共用空間、誰もが滞留可能なオープンスペース
屋外広場	・施設間を結びイベント等に活用可能な広場空間
駐車場	・一般利用者のための駐車場

複合施設を建設する場合、施設規模に応じた敷地の選定、施設整備に要する費用や時間等を精査し、将来の町財政負担も考慮した施設整備を計画します。

また、複合化、集約化、分散化それぞれのメリット、デメリットを検討し、施設全体として住民サービスの向上と持続可能な公共施設の管理運営、地域の活性化が図られるような地域の拠点化を目指します。